

1. 令和3年度前半の活動

1-1. 令和3年度(2021年度)前半の博物館の主な活動(時系列順)

4月

- 琵琶湖博物館 第三次中長期基本計画 策定(別添資料1)
- アトリウム展示「令和2年度「ごはん・お米とわたし」図画の部入賞作品展」(3/23-4/11)
- ギャラリー展示「知っていますか?日本農業遺産『琵琶湖システム』」(4/11-6/6)
- 第1回研究セミナー(4/16)
- 里山体験教室(4/25)

5月

- 新型コロナウイルス感染症対策による臨時休館(4月29日~5月11日)
- 第2回研究セミナー(5/21)
- 生活実験工房オンライン観察会(5/22)
- はしかけオンライン登録講座(5/23)
- アトリウム展示「山里の自然と暮らしの文化を活かした地域(むら)づくり」(5/29-7/11)

6月

- 豊かな生物をはぐくむ水田講座(初級)(6/6)
- ちっちゃな子どもの自然遊び(6/16)
- 第3回研究セミナー(6/18)
- 須原魚のゆりかご水田オンライン観察会(6/19)
- ふらっと自然観察会・新旭(6/23)

7月

- 里山体験教室(7/11)
- 洞庭湖博物館と連携に関するオンライン会議(7/14)
- 第4回研究セミナー(7/16)
- 第29回企画展示「湖国の食事(くいじ)」(7/17~11/21)
- 田んぼ体験教室・昆虫採集(7/25)
- 企画展関連シンポジウム「未来を醸す~湖国の食事文化~」(7/31)
- アトリウム展示「湖国の食事をめぐる旅」(企画展関連展示)(7/31~8/26)

8月

- 企画展関連イベント「湖国の食をめぐる大冒険」(8/1)
- 第5回研究セミナー(8/20)
- 博物館実習(8/23~8/27)

9月

- 緊急事態宣言発令のため休館（8月27日～9月30日）
- 150年ぶりに再記載されたビワコツボカムリの標本受け入れ（9/3）
- 洞庭湖博物館と連携に関するオンライン会議・第2回（9/16）
- 第6回研究セミナー（9/20）
- はしかけオンライン登録講座（9/26～10/3）

10月

- 無料ガイドアプリ「ポケット学芸員」運用開始（10/1）
- 琵琶湖-水月湖 湖ラボ展「季節がつくりだす地層の縞模様-年縞」（10/1～11/14）
- 草津未来プロジェクト子供ロケット教室（10/9）
- 海南市教育委員会視察（10/14）
- 第7回研究セミナー（10/15）
- 琵琶湖博物館 25周年記念シンポジウム「琵琶湖博物館との新しいつきあい方」（10/23）
 - *完全オンラインで実施

11月

- 滋賀の食事文化研究会設立30周年記念講演会（11/7）

1-2. 新型コロナウイルス感染症対策

対策の基軸

- ・マスク着用・手洗い／消毒励行、検温
- ・感染を防ぐ距離の確保 → 事前予約による館内の人数調整
- ・県のステージに応じたイベント開催の調整

湖岸緑地の閉鎖と連動した臨時休館 4/29-5/11、8/27-9/30

1-3. 各活動の詳細

1-3-1. 研究

(1) 成果の発信

- ・令和3年度（2021年度）研究成果発信累計
 - 原著論文5、専門分野の著述7、一般向けの著述15、学会・研究会発表14
- ・研究調査報告書（R2年度未発行）
 - 33号 田上ペグマタイト 中野聰志・里口保文 編 ……即完売
 - 34号 烏丸地区深層ボーリングコアの年代と堆積相

・新聞連載 5紙

中日新聞「湖岸より」

京都新聞「びわ博からフィールドへ」

朝日新聞「ビワハツ琵琶湖博物館研究だより」

毎日新聞「びわ博こだわり展示の裏話」

産経新聞「日曜日に知る 琵琶湖の魚たち」

・琵琶湖博物館ブックレット 2冊刊行

13巻 琵琶湖と古墳～東アジアと日本列島からみる～

用田 政晴（神戸学院大学教授・滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員）

14巻 琵琶湖と俳諧民俗誌 - 芭蕉と蕪村にみる食と農の世界 -

篠原 徹（滋賀県立琵琶湖博物館名誉館長）

研究セミナー（毎月第三金曜日開催）開催分タイトル一覧

タイトル	発表者
化石貝虫類の例外的な保存	R. J. スミス
琵琶湖周辺における「魚類が侵入できる水田」の20年間の変化	金尾 滋史
明治初期の滋賀県における普請所調査絵図の作製とその意義	島本 多敬
タニガワナマズと東海地方産ナマズの遺伝的隔離と遺伝子流動	田畑 諒一
琵琶湖岸砂浜の海浜性昆虫相	八尋 克郎・武田 滋
琵琶湖でやりたいこと！-琵琶湖・淀川水系における魚類多様性の起源解明とその保全に向けて-	川瀬 成吾
ヨシの品質と用途・生育環境との関係～既存の知見の整理と西の湖での調査～	芦谷 美奈子
明治・大正期の滋賀県における農閑期副業について-『滋賀県ノ副業』を中心に	辻川 智代（特別研究員）
自然・生業・自然観-琵琶湖の地域環境史-	橋本 道範
滋賀県の中間湿原に出現する珪藻の分類学的再検討	大塚 泰介
森林をめぐる鳥と人の環境史：鳥の視点からの考察	亀田 佳代子
どれほど前の降雨が現在の湖の水位に影響をあたえるのか（河川流入編）	岩木 真穂（特別研究員）
琵琶湖で獲れる降湖型アマゴは「サツキマス」？	桑原 雅之（特別研究員）
南湖の沈水植物の年-年変動の仕組みについて	芳賀 裕樹
滋賀県統計書からみた近代の人間活動	妹尾 裕介
湖岸でみられる植物・昆虫の季節変化	大槻 達郎
抗体による微小生物の識別	廣石 伸互（特別研究員）
堆積物中のクンショウモ遺骸はクンショウモ相を明らかにするのか	鈴木 隆仁
琵琶湖地域における最終氷期最盛期の森林構成について	山川 千代美
特定外来生物ソウシチョウの現状と管理ユニットの開発	天野 一葉（特別研究員）
南西諸島の湿地に生息するアシナガバエ	榊永 一宏

(2) 研究専念日・専念時間の確保について

毎週水曜日全日、毎週火曜日・木曜日の午前中を一律に研究専念の時間として割り当て
6月1日より試行開始、継続中

1-3-2. 資料収集・活用

(1) 映像(写真)資料 大橋コレクション公開 8月24日

琵琶湖博物館ウェブサイト>リサーチアーカイブス>ウェブ図鑑 1170件

*新琵琶湖博物館創造基本計画の行動計画にあった項目

*第三次中長期基本計画の重点事業 2-2「標本・資料の整理の推進と公開による
利用促進」関連

(2) ガイドシステム ポケット学芸員の試験運用を開始

解説内容は現行の音声ガイドと同じ(音声無し)

*第三次中長期基本計画の重点事業 2-3「ICTを利用し、だれでも・どこでも・
いつでも使える博物館を創出」関連

1-3-3. 交流活動

(1) 新型コロナウイルス感染症対策

ステージによるイベントの開催判断 屋外:ステージ III 以下、屋内:ステージ II 以下
オンラインの積極的導入 はしかけ登録講座、観察会、シンポジウムなど

(2) 琵琶湖博物館開館 25 周年シンポジウム「琵琶湖博物館との新しいつきあい方」

開催日 10月23日(土) 事前申し込み。完全オンラインで実施。詳細別紙

参加者数: 人

【概要】

第三次中長期基本計画の策定を受け、計画のテーマである「集い、学びあい、琵琶湖を
世界に発信する博物館」となるための人々の利用の形について、当館、他館の事例を
参考に討議を行った。

*第三次中長期基本計画の全体コンセプト「出あい、学びあい、琵琶湖を世界へ発信
する博物館へ」および重点事業 1、3 に対応

1-3-4. 環境学習センター

- (1) ウェブサイト エコロし〜がの全面刷新
- (2) SNS (ツイッター、フェイスブック、インスタグラム) 開設

- (3) 「びわこのちから」発見! フォトコンテスト作品募集

応募期間: 7月7日~8月31日

入賞作品は県内で巡回展を開催、「エコロし〜が」に掲載。

巡回展 (予定)

滋賀県立図書館: 2021年11月3日(水)~11月14日(日)

北部地域文化センター: 2021年11月26日(金)~12月2日(木)

ビバシティー彦根: 2021年12月6日(月)~12月11日(土)

1-3-5. 展示

(1) 企画展示室

ギャラリー展示「知っていますか? 日本農業遺産『琵琶湖システム』」

開催期間: 4月17日-6月6日

主催: 滋賀県農業政策課、共催: 琵琶湖博物館

第29回企画展示 「湖国の食事(くいじ)」

開催期間: 7月17日-11月21日

主催: 琵琶湖博物館・滋賀の食事文化研究会

趣旨: 琵琶湖をぐるりと山々が囲んだ湖国・滋賀県には、土地でとれる旬の食材を、おいしく頂いたり長く保存したりする様々な知恵や技が息づいている。本企画展では滋賀の食事文化の豊かさに触れ、今とこれからの食事を考える。

関連イベント:

- ・シンポジウム「未来を醸す~湖国の食事文化~」7月31日
- ・「湖国の食事をめぐる旅」(アトリウム) 7月31日-8月26日
滋賀県の郷土料理・伝統食に関する食文化を保存・継承する活動を積極的に行っているグループを紹介
- ・その他、展示室内で随時交流活動を実施

(2) 常設展示

A展示室

地域の人びとによる展示

「元彦根藩士 杉村次郎 金石の旅 - 近代鉱業家・鉱物 研究家の魁 -」(4/3-10/1)

明治時代の滋賀県で開発された鉱山にゆかりのある鉱山技師であった杉村次郎に着目して、杉村次郎が関わった鉱山・鉱石と関連の深いものについて、福井龍幸さんが調査および採集されてきた鉱物・鉱石の標本を展示。

「宇治田原の植物化石」10/2-3/28

宇治田原町に分布する綴喜層群（約 1700 万年前頃、中新世）から馬越仁志さんが採集した植物化石を展示。*綴喜層群は宇治田原が海だったころの地層。

福井県立年縞博物館との連携【トピック】

福井県三方五湖のひとつ、水月湖では湖底に泥が堆積する際に毎年1本ずつ縞模様（年縞＝ねんこう）ができる。水月湖では7万年におよぶ年縞の標本が採取され、各層の年代が正確にわかることを利用して、さまざまな年代測定法を補正する「ものさし」として利用されている。



・年縞博物館と琵琶湖博物館の連携

年縞博物館は2018年9月15日に開館した。2020年7月30日に行われた滋賀県・福井県知事懇談会で、ともに過去の環境再現に取り組む両館の交流促進が合意された。

・取組

- ①年縞博物館で琵琶湖博物館の移動博物館を展示（2021/3/5-4/19）
- ②琵琶湖博物館で『琵琶湖-水月湖 湖ラホ展「季節がつくりたす地層の縞模様-年縞」』を開催（2021年10月1日-11月14日）

B展示室 学芸員のこだわり展示（館蔵品紹介コーナー）

第4回：名所図会にみる「湖のながめ」

『近江名所図会』を主に取り上げ、琵琶湖を望む風景の挿し絵とその特徴を紹介。

前半（3/16-4/18）

- ・『近江名所図会』巻二「近松寺山頂安然塔并ニ湖上望遠の美景」
- ・『近江名所図会』巻三「其二 湖水眺望」「其三 西近江御旧蹟」

- ・『近江名所図会』巻四「石馬寺 地獄越」

後半（4/20－5/16）

- ・『伊勢参宮名所図会』附録一「近松寺山頂安然塔并ニ湖上望遠の美景」
- ・『近江名所図会』巻三「其二 湖水眺望」「其三 西近江御旧蹟」
- ・『木曾路名所図会』巻一「磨針峠」

第5回「風景を持ち帰る－明治の写真帖－」5/18－7/11

明治時代につくられた写真帖と、そこに収められた近江の風景写真を紹介。

- ・『明治期手彩色写真帖』（明治時代）

第6回「瀬田川ざらえの願い」7/1－8/26

琵琶湖周辺の村々を描いた絵図から江戸時代の瀬田川ざらえ普請の様相を読み解く。

- ・『伊勢参宮名所図会』附録一「近松寺山頂安然塔并ニ湖上望遠の美景」
- ・『近江名所図会』巻三「其二 湖水眺望」「其三 西近江御旧蹟」
- ・『木曾路名所図会』巻一「磨針峠」

第7回「滋賀のなかの三方五湖」10/1－11/28

福井県の一部（嶺南地方）が滋賀県だった時代（明治9－12年）の滋賀県の教科書や地図での三方五湖の表現のされ方を紹介。

- ・『滋賀県管内地理書』
- ・『滋賀県管内地理図』



アトリウム展示

「令和2年度『ごはん・お米とわたし』図画の部入賞作品展示」 3/23－4/11

主催：JA 滋賀中央会

「山里の自然と暮らしの文化を活かした地域（むら）づくり」 5/29－7/11

主催：結いの里・棕川

「湖国の食事をめぐる旅」 7/31－8/26

主催：琵琶湖博物館・滋賀の食事文化研究会

1-3-6. 企画調整

(1) 情報システム（ウェブサイト）

中長期基本計画の策定を受け、「リアル」の博物館利用（展示観覧、行事参加）と並ぶ「バーチャル」（オンライン）の博物館利用の充実を図るため、ウェブサイトの再構築に着手

(2) 博物館実習（8/23～8/27）

新型コロナウイルス感染症患者の急増によりすべて実習をオンラインで行った。博物館実習は本来、博物館の現場でリアルな体験するためのものであるため、それに匹敵する体験をどのように提供するかという困難な課題に取り組んだ。

全日オンライン	AM 9:00～12:00	PM 13:00～16:30
8/23（月） 【実習担当】	9:00～9:05 開講式【高橋館長】 9:05～9:15 実習ガイダンス・諸注意【実習担当】 9:15～9:40 実習生自己紹介 9:40～10:30 講義：琵琶湖博物館の研究活動【亀田研究部長】 (10:30～10:40 休憩) 10:40～11:30 講義：琵琶湖博物館の事業活動【山川事業部長】 11:30～12:00 施設紹介1【島本】	13:00～14:00 講義：博物館のweb利用・おうちミュージアムについて【鈴木】 (14:00～14:10 休憩) 14:10～16:20 施設紹介2【島本】 (15:10～15:20 休憩) 16:20～16:30 2日目以降のプログラムに関する連絡【実習担当・広報営業課】
8/24（火） 【展示係】	9:00～9:30 展示交流とは何か（講義）【大塚展示係長】 9:30～12:00 宿題の展示パネルの発表（と質疑、学芸員による講評、修正点の指摘；間に10分程度の休憩をはさむ）【大塚、戸田、芦谷、大久保、田畑】	13:00～14:20 オンラインで質問を受けながら展示パネルを修正してもらおう【大塚、戸田、芦谷、大久保、田畑】 (14:20～14:30 休憩) 14:30～16:10 修正したパネルの発表（主に修正点の説明；間に10分程度の休憩をはさむ）【大塚、芦谷】 16:10～16:30 講評【芦谷】
8/25（水） 【資料活用係】	9:00～9:30 講義：博物館のコレクション【橋本】 9:30～10:00 講義：IPMについて【橋本】□ (10:00～10:10 休憩) 10:10～12:00 実習：博物館資料について考える【榎永資料活用係長】	13:00～15:00 実習（続き） (15:00～15:15 休憩) 15:15～16:30 発表会（1人5分×14人）
8/26（木） 【企画調整課・広報営業課】	9:00～9:50 講義：琵琶湖博物館のユニバーサルデザインについて【芳賀企画調整課長】 9:50～12:00 実習：博物館webサイトのユニバーサルデザインチェック【芳賀】	13:00～13:40 講義（総論）：琵琶湖博物館の広報PR活動について【初宿広報営業課長補佐】 13:40～15:00 講義（各論）・実習：「博物館広報：学芸員として、公務員としての悩ましさ」「カレンダーポスターの制作について」【中井・福井】 15:00～15:30 カレンダーポスターの発表と意見聴取、講評 (15:30～15:40 休憩) 15:40～16:30 講義：展示の企画・制作・実施について【島本】
8/27（金） 【交流係】	9:00～10:00 講義：交流事業について【楊・中川・金尾】 (10:00～10:15 休憩) 10:15～12:00 講義・実習：学校連携について（体験学習）【由良・安達】	13:00～14:30 講義・実習：利用者への交流対応のありかた【金尾】 (14:30～14:45 休憩) 14:45～16:15 最終レポート執筆【実習担当】 (16:15～16:25 休憩) 16:25～16:30 閉講式【高橋館長】

1-3-7. 広報・営業

(1) 広報活動

コロナ禍のもとでも可能な限り取材を受け入れるとともに、広報業務委託会社を活用して関西・東海エリアや全国ネットへの情報発信を進めている。

10月31日現在の状況

資料提供	21件	テレビ・ラジオ放送	35件	新聞掲載	130件
雑誌等掲載	44件	WEB掲載	898件	広告掲載	6件
SNS発信	557件(登録者数8,031人)	フェイスブック	27件(3,556人)		
		ツイッター	259件(2,053人)		
		インスタグラム	271件(1,892人)		

<主な出演>

- ・ TBS 系列『世界ふしぎ発見!～水の都京都とミステリーレイク琵琶湖のふしぎ～』(5/22)
- ・ 京都新聞滋賀版「フロンティア：湖国のキーパーソン」：館長インタビュー (6/26)
- ・ フジテレビ系列『めざまし8』(6/25)：外来植物の脅威レポート
- ・ フジテレビ系列『Mr.サンデー』(7/11)：びわ湖の日40周年シンポジウム
- ・ 『湖国と文化』で連載「琵琶湖センス・オブ・ワンダー」および広告掲載

<資料提供トピック>

「103年ぶりの再記載(ビワコツボカムリ)」(9/3)

「約30年ぶりの発見(コガタノゲンゴロウ)」(10/15)

(2) 営業活動

連携先の状況を見計りながら企業・団体への訪問や来館対応を継続的に行っている。

企業・団体訪問や来館対応等 214件

企業・団体による視察・研修会等 1件(3件中止)

協賛 48件 14,573千円(10月31日現在：申込ベース)

【企業・団体連携実績】

感謝状贈呈 5件

5月13日：(株)千商、(株)大同 8月17日：(株)山久、(株)山崎砂利商店

10月21日：(株)ダイフク

【観光・教育旅行等関係機関との連携等】

福井県年縞博物館との連携

6月17日 福井県新任教頭研修会での琵琶湖博物館の紹介

7月7日 福井県新任校長研修会での琵琶湖博物館の紹介

7月30日「しが環境教育研修」での滋賀県小中学校への福井県年縞博物館の紹介

観光部局等関係機関との連携

- ・びわこビジターズビューロー

教育旅行誘致部会・国内旅行誘致部会・インバウンド部会の各部会総会出席

- ・県観光パンフレット『シガリズム』

琵琶湖博物館掲載

- ・「教育旅行誘致キャラバン」参加

県外旅行社へのPR活動（7月14日～15日）

- ・草津市観光部局との連携

草津市観光パンフレット等での琵琶湖博物館掲載

- ・烏丸半島関係機関

草津北部まちづくり協議会広報誌『烏丸』での企画展示情報掲載

2. 新琵琶湖博物館創造基本計画 行動計画令和2年度結果と5年間の総括

(1) 令和2年度結果

別添資料参照

(2) 5年間の総括

開館20周年を機に開始された琵琶湖博物館の展示・交流空間のリニューアルは、新型コロナウイルス感染症の蔓延により若干の延期を余儀なくされたものの、令和2年10月には無事完了することができた。このリニューアルにあわせ、新たな琵琶湖博物館像の確立を目指す新琵琶湖博物館創造基本計画・行動計画を作成し平成29年度から令和2年度まで5年間にわたって事業を行った。

個別項目の成果や課題の詳細については別添資料を参照していただくとして、ここでは全体を概観した総括を記す。新琵琶湖博物館創造基本計画では次の5つの課題が提示されていた。

1. 常設展示の再構築
2. 交流空間・交流機能の再構築
3. 利用者の利便性・快適性を高める施設整備
4. 多様な主体との連携
5. 広報営業活動の強化

行動計画は上記5項目について作成するとともに、資料活用・研究の2分野について次の課題を作成した。

6. 資料を利用しやすい博物館への進化と飼育生物の計画的繁殖
7. 「湖と人間」の関係を考える研究の推進

全体の事業項目は62項目に及び、終了した今となってはやや細かすぎる項目もあったが、その大半はおおむね所期の目的を達成できたと考えている。リニューアル関連の施設整備は予定通り完了し、3の項目で掲げたUDの推進も、UD検討委員会の皆様の尽力により胸を張れる成果が得られたと考えている。もちろん、UDは決して終わりではなく、日常的な改善を重ねていくものである。その精神や方針は第三次中長期基本計画にも継承されている。同じ施設整備でも、運営などソフト面の要素が強いICT関連の分野は今後の課題が多く残る結果となった。課題は大きく二つあり、ひとつはICTを使いこなす技量の向上、あるいはそれを導く技量の向上である。もうひとつはICT自体がまだ未成熟であり変化を続けていることであり、ウェブサイトや音声ガイド、データ公開などの技術は今後さらに変化が加速していくことが予想される。残念ながら、研究の分野などでは、こうした変化を見据えつつ意義のあるコンテンツを作成する余裕がなかった。4の多様な主体との連携では、企業や各種団体との連携の輪が広がったのが大きな収穫といえる。そうした中で課題として残ったのは高校生・大学生へのアプロ

一チである。琵琶湖梁山泊やいくつかの講座ではこれらの層の活躍が始まっている一方で、キャンパスメンバーズなど、すそ野を広げる取組に進展ははかばかしくなかった。6の資料の活用については計画的な資料整理が功を奏して、いくつかのコレクションの公開、あるいは漁具コレクションの国登録を実現するなどの成果が上がったほか、クラウド型データベースへの移行など、今後のデジタルトランスフォーメーションを見据えた事業転換を行うことができた。7.の研究の推進についてはウェブでの公開は停滞したものの、書籍など既存媒体での発信は充実した。一方で、国際協力については計画前半は比較的順調に進んだものの、後半は新型コロナ禍により停滞を余儀なくされている。最後に、広報や集客であるが、第2期リニューアルまでは順調に進んだものの、第3期グランドオープンが新型コロナ禍と重なったため、最終的な成果が見えない状況となっている。特に計画策定時に飛躍的な増加が見込まれていたインバウンド需要は全く白紙の状態となり、評価不能な状態に陥った。また、ツイッターやフェイスブック、インスタグラムなどのSNSによる情報発信もまだ手探りの状態である。これらの改善も第三次中長期基本計画で取り組む課題となっている。

3. 第三次中長期基本計画

3-1. 中長期基本計画策定の報告

琵琶湖博物館第三次中長期基本計画が令和3年3月末に策定された
(別添資料：中長期基本計画確定版、概要版)。

前回の新琵琶湖博物館創造基計画・行動計画では項目が多岐にわたりすぎたという反省を踏まえて項目の絞り込みを行い、本計画は6つの事業目標の下に15の重点事業を配した構成となっている。

3-2. 行動計画の作成

第三次中長期基本計画は今年度よりスタートするが、初年度はその行動計画の作成と、各事業の開始準備に充てている。現在作成中の行動計画は別紙のとおりで、今後微調整を加えながら、年度末での確定を目指している。

【行動計画のあり方】

行動計画は、第三次中長期基本計画は琵琶湖博物館の将来のあるべき姿を想定し、そこに向かって変容(進化)していくための工程を明らかにし、達成状況をもとに進行管理を行っていく。

事業がある程度形を成した段階(おおむね3年目)から事業の効果測定を開始し、十分であればさらに進め、不十分であれば方針変更、あるいは取りやめて別の方法を探すことを想定している。

中長期基本計画の全体期間は10年間だが、中間段階の5年目に大きな方向性の検証を行い、必要に応じて軌道修正を行う。

3-3. 計画の評価制度について

第三次中長期基本計画では、従来の内部評価に加え、あらたに外部評価制度を設ける。この外部評価は、館が行った内部評価に対して評価を与えるもので、これまで琵琶湖博物館協議会で行ってきた内部評価に対する意見聴取という形を改めて制度化し、内部評価と外部評価を合わせて評価報告書を作成するようにする。

詳細は未定だが、年度末までに協議会各委員が移植されている専門性に沿って評価を行えるよう仕組みを構築する予定。

また、この制度の導入に伴い、琵琶湖博物館協議会の開催時期や運営も変更を予定している。

【現時点で想定している評価の仕組みと時期】

- (1) 中長期基本計画に沿って、重点事業ごとに行動計画を策定
- (2) 年度末にその年度の目標について、どの程度達成できたかを博物館が自己評価する。
また、事業等を開始した場合はその時点から効果測定を開始し、評価の対象にする。
- (3) 5月上旬をめどに自己評価報告書にまとめ、琵琶湖博物館協議会各委員に提示
- (4) 琵琶湖博物館協議会を5月下旬～6月上旬に開催して、自己評価報告に関する説明や討議を行う。
- (5) 協議会での説明や討議を踏まえて、各委員の皆様より、評価書を6月一杯をめどに提出していただく。＝外部評価
- (6) 自己評価と外部評価の結果を最終報告書にまとめ、7月中にウェブ等で公開する。